

【研究課題名】

近赤外光感応性をもつジアザポルフィリン-ポルフィリン連結分子の創製と利用

【各研究項目の連携状況】

領域内の他の研究グループとの連携状況（予定を含む）について、①簡略化した共同研究内容②連携研究代表者姓（研究項目班）③共著論文の有無（件数）を研究内容毎に記載

①ジアザポルフィリン誘導体の X 線結晶構造解析、②箕浦真生（A01）、③有（1）

①ジアザポルフィリン誘導体の電子スピン共鳴スペクトルの測定、②古川貢（A02）、③有（1）

①ヘテロール誘導体の X 線結晶構造解析、②時任宣博（A03）、③無（投稿準備中）

【研究費の使用状況（設備の有効活用、研究費の効果的使用）】

研究費は主に、標的化合物の合成に必要な試薬類とガラス器具の購入、および、学会発表や連携研究者との打ち合わせを行うための旅費に充てた。

【原著論文】

1. © M. Kawamata, T. Sugai, M. Minoura, Y. Maruyama, K. Furukawa, C. Holstrom, V. N. Nemykin, H. Nakano, *Y. Matano, “Nitrogen-Bridged Metallodiazaporphyrin Dimers: Synergistic Effects of Nitrogen Bridges and *meso*-Nitrogen Atoms on Structure and Properties”, *Chem. Asian J.* **12**, 816–821 (2017).
2. S. Omomo, Y. Tsuji, K. Sugiura, T. Higashino, H. Nakano, H. Imahori, *Y. Matano, “Unsymmetrically Substituted D- π -A Type 5,15-Diazaporphyrin Sensitizers: Synthesis and Optical and Photovoltaic Properties”, *ChemPlusChem* Early View (DOI: 10.1002/cplu.201700051).

【総説・解説】

1. *Y. Matano, “Synthesis of Aza-, Oxa-, and Thiaporphyrins and Related Compounds”, *Chem. Rev.* **117**, 3138–3191 (2017).

【受賞について】

2016年6月24日：研究協力者 大桃理志（新潟大学大学院自然科学研究科・博士後期課程1年），第40回有機電子移動化学討論会 ポスター賞

【アウトリーチの実施状況】

2016年8月9-10日：新潟大学オープンキャンパスで研究内容をポスター発表した